

則ち電車部當面の方針は即座に歪められた。本提案に就いて討議の結果、當日の拡大委員会に於ける決議は決議として保留し、一時的に破裂した合同交渉の再燃を企図すべく、左の五名の交渉委員を擧げた。

野平末松（三ノ輪）、田中房雄（青山）、須田菊次（大塚）、五十嵐子次郎（神明所）、鈴木一（錦糸堀）

右委員は二十三日自動車部委員と会見して、自動車部大衆が、東文統一大会の開催を熱望せる趣旨を通じて、自動車部の参加を説いた。併し自動車部の主張には未だ軟化はみられなかつた。唯電氣局第二更生案に對する防衛斗争之前にしての東文の統一強化並に大会の意義を認め、この意味に於ける大会準備費、或は本部財政確立の爲には、本部費の納入にありざる性質の資金提供は否むものに非ず、と電車部の交渉に稍々應じて未だ。

茲に於て、同日午後、本部中央委員会に電車部單獨の自動車部との再交渉の妥當性に就いて批判討論した。中央委員中非東務部出身の者は電車部のこの單獨交渉否認の意向を待つものあり、或は自動車部の眞意に疑念を懐くものあり、論争は限りなく二時間半に亘つた。結局、改めて本部選出交渉委員及前の電車部山名の交渉小委員

は、自動車部と折衝し、其の要項を再検討することゝなつた。

依つて二十三日交渉委員は電氣局健康保険組合会議室に自動車部代表と会見して協議した。冒頭、河野平次は自動車部に對し、電車部交渉委員に對し、東文大会参加の誠意を示されたること、第一其の眞意を確かめ因満交渉の路を求め、又文統一へ邁進したる上との趣旨を述べ、自動車部はこれに對し協議の後、四月分の本部費を納入する、但し大会を十一月三日前後に延期することと提案した。

茲に於て、三月月分以外の本部費納入如何に就いては、合同大会後新本部に財政確立整理委員会を設置して協議解決すべきことを附加條件とし、他は一切無條件として両派の妥協は成立した。一月及び二月の間に問題に發端して、内訌の泥沼を極めた東文陣営も、電車部の確立を欲做として、篠田一派の軟下と、田中房雄、河野平次等の倦まざる斡旋の甲斐あつて茲に時壹掃更生した。

### 三、東文定期大会と其の後の情勢

(1) 東文合同定期大会一團休協約締結方針決定